

稲作だより

第7号茎数確保・中干し編

令和7年6月24日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

生育は回復傾向！
目標茎数確保に向け、もうひと頑張り！
目標茎数を確保したら直ちに作溝中干し

◎生育診断圃の6月20日生育調査結果と技術対策

品 種	年 次	移植日 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本/m ²)	葉 数 (枚)	葉 色 (SPAD値)
はえぬき	本 年	5/26	33.6	334	7.4	46.1
	前 年	5/25	29.3	338	7.8	40.5
	平 年	5/24	32.7	355	7.4	40.3
	平年比・差	+2	103	94	±0.0	+5.8
つや姫	本 年	5/16	44.5	475	8.4	46.6
	前 年	5/16	44.4	578	8.3	46.4
	平 年	5/17	38.3	493	8.1	42.8
	平年比・差	-1	116	96	+0.3	+3.8
雪若丸	本 年	5/28	29.2	366	7.3	46.2
	前 年	5/23	25.7	415	7.9	43.3
	平 年	5/24	27.9	429	7.5	42.8
	平年比・差	+4	105	85	-0.2	+3.4

茎数不足の圃場では、ワキ対策と浅水管理で分けつ促進！

茎数は、平年の85~96%となっており、圃場によって生育のバラつきが大きくなっています。6/11~6/20の高温・多照により、移植が遅かった圃場でも、葉数は平年並み程度まで大きく進み、葉色も平年より濃くなっています。一方で、高温による異常還元（ワキ）が強く見られる圃場が多くなっています。

今後2週間も、気温の高い日が多い予想となっています（気象庁2週間気温予報）。

水交換や田干し等のワキ対策を交えつつ、有効茎数の8~9割を確保するまで浅水管理（水深2~3cm）を徹底しましょう。

◎<雪若丸>初期生育が不足している場合の技術対応

「雪若丸」は、茎数が収量に与える影響が他の品種よりも大きいため、浅水管理や田ワキ対策を実施した上で、6/20の生育が不足（茎数300本/m²以下、かつ葉色40以下）している場合には、窒素1kg/10aの補完追肥を行いましょう。なお、補完追肥を実施した場合は、相当量を穂肥時に減肥します。

◎目標茎数を確保した圃場は、直ちに作溝・中干し！

中干しにより、窒素吸収の抑制による無効分げつや下位節間伸長の抑制、根の活力向上等を通じて、登熟向上、作業性向上、倒伏軽減が図られます。

中干し開始の目安

目標茎数（有効茎数の8～9割）を確保した圃場から速やかに中干しを行いましょう。

目標茎数に満たない圃場でも、遅くとも6月30日までは作溝・中干しを開始しましょう。

中干しの開始が遅れると、穂肥適期までに十分な中干しの効果が得られなくなる恐れがあります。

また、今後も雨が多い予報のため、昨年度のように「十分な中干しができない→葉色が濃い→適切な穂肥ができない」となる恐れもあるため、中干しの開始が遅れないようにしましょう。

中干し開始時の茎数の目安

品種	有効茎数 (本/m ²)	目標茎数 (本/m ²)	株あたり目標茎数(本)	
			70株/坪植	60株/坪植
はえぬき	480	380～430	18～20	21～24
つや姫	410	330～370	16～17	18～20
雪若丸	560	450～500	21～24	25～27
あきたこまち	450	360～410	17～19	20～23
ひとめぼれ	500	400～450	19～21	22～25



作溝の目安

作溝は中干しの効果を高め、その後の給排水を容易にし、登熟期の水管理がしやすくなります。中干し開始数日後に3～5m間隔（概ね10～17条おき）で溝を施工しましょう。

中干し期間の目安

地力や生育量に応じて、中干しの期間を決定します。右の表を参考に、自分の圃場における中干しの程度を決定しましょう。

地力：低～並 生育量：並～良	目安は7～10日 小ヒビが入る程度
地力：高 生育量：過多	目安は11～15日。 強すぎて大きなヒビが入り、 根が切れないように。

◎葉いもち対策【取置き苗は直ちに処分】

圃場をよく確認して早期発見、早期防除を徹底！



管内では6月17日に葉いもち感染好適条件が出現しています（新庄アメダス）。

梅雨入りし、今後も最低気温が平年より高く20℃を超え、曇天の予報であり、葉色が平年より濃いため、いもち病が感染しやすい条件が揃っています。箱施用剤を使用した圃場でも、油断せず葉いもちの早期発見に努め、発生初期に防除しましょう。

取り置き苗を圃場に置いている場合は、近隣圃場への感染源になる可能性があります。直ちに処分しましょう！

農作業事故と熱中症に十分注意してください！
休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！